

自然公園のあり方について（中間取りまとめ） （骨子案）

1．はじめに

懇談会を組織して議論を行うに至った経緯

第1回から第8回までの議論の概要

- ・個別事項については「中間整理表」において取りまとめ

2．自然公園をめぐる現在の社会状況

国際的な動向

- ・世界自然遺産、地球温暖化対策（風力発電等）

国内の社会動向

- ・観光立国、景観法、構造改革特区
- ・地方分権、規制緩和、情報公開

自然環境に関わりの大きな動き

- ・公共事業における景観配慮、自然公園事業を見る目
- ・生物多様性国家戦略、自然再生、外来種対策
- ・エコツーリズム、グリーンワーカー事業

3．自然公園制度の経緯と今後の方向性

自然公園の過去の経緯と果たしてきた役割

- ・自然公園制度の歴史的な経緯
- ・様々な視点からの評価

今後の自然公園の目指すべき方向性

- ・国際的な観点
- ・保護と利用の重点の置き方、景観の創造、自然再生
- ・自然公園の外部や他の公共事業等との関係性
- ・保護管理の体制強化と役割分担

4．今後の自然公園制度の運用において留意すべき事項

自然公園の保護管理に係る技術・手法
専門家及び地域住民・NPOの意見の反映
制度の運用に必要なデータ類の整備、情報提供

5. 特に方向性を具体化すべき課題

役割の多様化を踏まえた制度のあり方
自然公園の価値評価・存在意義の明確化とそのPR
国、地方自治体及び民間の役割分担及び連携のあり方
自然景観及び生物多様性の確実な保全を図る計画手法、管理手法
自然体験、整備技術、利用者指導など専門的人材の育成

参考資料

中間整理表

山岳地域における歩道のあり方
地域社会など多様な主体の参加による自然公園の風景の形成
自然再生と自然公園
自然公園等事業の現状と今後の方向について
自然公園における自然とのふれあいの推進

～ ビジターセンターを中心として

自然公園制度に係る年表

懇談会委員名簿及び懇談会経緯